

# 外来化学療法部

## ■ スタッフ

**部長** 水野聡朗  
**副部長** 小林哲  
 問山裕二  
  
**看護師** 小林やよい  
  
**薬剤師（主任）** 日置美紀  
 石橋美紀

## ■ 診療科の特色・診療対象疾患

### 1. 外来化学療法部とは

近年、がんに対する薬物療法は、目覚ましい進歩を遂げ、外科手術、放射線治療、内視鏡的治療、IVRの治療とともに重要な位置を占めています。様々な腫瘍で薬物療法が実施されていますが、その多くが、生活の質（Quality of Life：QOL）の観点から外来治療として実施されています。

このような背景から、2015年5月にオープンしました新外来棟では、外来化学療法部は治療ユニットを34に増床し、増加する外来治療に適切に対応できるよう体制整備を行いました。

### 2. 主な診療対象疾患

がん薬物療法を専門とするスタッフ（医師、看護師、薬剤師）のもと、関係する診療科と緊密に連携して治療を行っています。

標準的治療のほか、新規治療開発のための臨床試験、治験なども受け入れております。

主な対象疾患は、治療・領域別に分けますと下記のように分類されます。

- 固形腫瘍（肺癌、乳癌、消化管腫瘍、肝癌、胆道癌、膵癌、婦人科癌、泌尿器癌など）に対する化学療法、分子標的治療、免疫療法
- 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など造血器腫瘍に対する薬物療法
- 小児がんに対する薬物療法
- 炎症性腸疾患・リウマチに対する薬物療法

## ■ 診療体制と実績

開設初年度の目標として、①治療実施数を増やすこと、②医療事故予防のため、システム上の問題点

の検証・改良を行うこと、主にこの2点にスタッフとともに重点的に取り組みました。

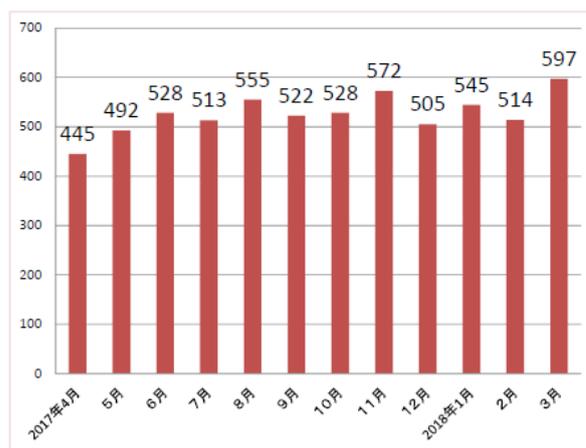
診療体制が整備された2016年以降は、地域がん拠点病院の一部門として、より高度で専門的な役割を果たせるよう、新たな取り組みを開始しました。臨床試験・治験の外来治療の体制整備もその一つになります。治験などの治療においては、通常治療と異なり、治療中の厳密なバイタルのモニターや薬物動態の採血を要する場合があります。このような要望に対応するため、治験専用ベット・指示簿等の整備、治験管理センターのスタッフとの連携を強化しています。

2017年4月から2018年3月までの診療実績を以下に提示します。

### ● 月別の治療実施件数

新しい病棟でのシステムも軌道にのり外来化学療法加算の月別件数も平均526と安定してきました。

(1) 外来化学療法加算月別件数(2017年4月～2018年3月)



### ● 曜日別実施数

曜日別（下記棒グラフ）でみると、月曜の実施数が若干少ない状況ですので、診療科の実施日の調整により、さらに実施数増加を検討しております。

(3) 曜日別月別件数(2017年4月～2018年3月)

	月	火	水	木	金	合計
2017年4月	93	79	94	104	75	445
5月	120	103	102	86	81	492
6月	88	80	102	152	106	528
7月	110	82	103	131	87	513
8月	81	102	132	173	67	555
9月	64	98	116	130	114	522
10月	91	110	129	113	85	528
11月	102	109	154	143	64	572
12月	94	103	115	109	84	505
2018年1月	68	92	130	142	113	545
2月	64	87	119	130	114	514
3月	87	79	103	169	159	597

● 診療科別の実施件数

診療科別の実施数は大きくは変わっておりません。腫瘍内科、肝胆膵外科、呼吸器内科、消化管外科、消化器内科などの実施が多い状況です。

今年度から、新たな診療科としてリウマチ・膠原病センターからの治療についても受け入れを開始しました。今後、新たな診療科からの受け入れにつきましても検討しております。

(4) 診療科別月別件数(2017年4月～2018年3月)

診療科名	整形外科	皮膚科	泌尿科	小児科	耳鼻科	産科	眼科	消化器内科	呼吸器内科	腎臓科	心臓科	循環器内科	泌尿器科	腫瘍外科	小児科	内科	外科	合計
2017年4月	14	24	22	5	1	0	6	36	44	2	18	130	58	79	6	0	0	445
5月	12	26	38	7	3	3	3	35	49	3	13	146	76	72	4	2	0	492
6月	14	34	31	4	1	1	5	38	60	4	31	152	67	79	5	2	0	528
7月	14	33	34	6	0	2	2	45	51	3	33	128	79	80	3	0	0	513
8月	12	32	30	7	0	0	6	56	57	2	43	149	59	97	5	0	0	555
9月	14	26	45	8	1	1	3	49	49	2	30	136	70	84	4	0	0	522
10月	19	23	45	8	3	0	1	42	61	3	33	131	69	86	4	0	0	528
11月	19	20	42	6	2	1	6	57	55	2	38	158	68	93	5	0	0	572
12月	14	27	41	7	6	1	4	34	39	4	40	131	68	85	4	0	0	509
2018年1月	19	28	45	7	3	0	3	57	47	0	42	140	72	79	3	0	0	545
2月	15	24	48	7	8	0	4	31	43	2	45	151	64	86	5	0	1	514
3月	18	24	58	7	8	1	4	57	50	3	56	149	76	81	3	0	2	597

■ 臨床研究等の実績

・がん薬物療法セミナー

複雑化するがん治療において、副作用管理はこれまでになく重視されています。そこで、支持療法に関する最新の情報を共有し、入院・外来治療のいずれにおいても質の高いケアが提供できるよう外来化学療法部主催（後援：三重大学がんセンター）でがん薬物療法セミナーを昨年度から開始しました。過去のセミナーは下記の通りです。

- 第1回 2017年2月16日「発熱性好中球減少症」
- 第2回 2017年5月31日「悪心・嘔吐の管理」
- 第3回 2017年9月26日「皮膚障害」

いずれのセミナーにおいても、医師、看護師、薬剤師、栄養士等の多くの職種が多数（50名前後）参加して行われました。今後も副作用対策をテーマとして、2～3ヶ月毎に開催していく予定です。

・学会活動

今後、重点的に取り組む課題として、外来化学療法部としての学会活動を考えております。具体的には、2018年度中に、関連する学会（臨床腫瘍学会）で、外来化学療法部での副作用対策に関する研究を発表する予定です。